

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800683		
法人名	(有)日本健康管理システム		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	兵庫県神戸市垂水区塩屋町5丁目13-23		
自己評価作成日	平成27年4月15日	評価結果市町村受理日	2015年 7月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成27年5月1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転に伴い地域交流スペースを地域の方々に使用して頂けるよう今まで以上に住民との関わりを密にしている。  
 食事は、すべて手作りで、入居者様と一緒に調理している。  
 入居者様もスタッフも親しく、家族のような会話ができています。  
 ご家族様との連絡を密にし、入居者様が、健康で安心して生活できるように支援している。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年12月に同町内に新築移転した。職員の入れ替わりもあり、管理者は、まだ目指す事業所には至っていないと考えている。移転に際し、地域とのかかわりを重視し、事前説明を丁寧に行った。移転後も職員全員が、地域住民に積極的に挨拶を心がけ、周辺掃除にも努めている。地域からは「事業所のおかげで夜道も明るくなり、常に誰かがいるので安心」との声が聞かれるようになった。今後は地域交流スペースの利用を検討しており、注目して期待したい。一方、坂道が多く日常的な外出がしにくい分、外出企画に力を入れている。利用者の意見をどんな場面でも聞くことにより、利用者のモチベーションを高め、年2回の行楽地訪問を実施している。他市の福祉風呂への外出は好評を博し、日頃見られない利用者の笑顔に職員も大いに癒された。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの目に付く所に貼り、日々のケアに心がけ基本姿勢として実践に努めている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の法人理念を、利用者と関わる日々のケアの根幹としている。昨年は各ユニットごとに、理念に基づく1年間の目標を掲げたが、事業所移転後の現在は、初心に返り法人の理念遂行を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	行事に婦人会や自治会・民生委員の方をお誘いしたり、地域行事に参加したりしている。出会った方に挨拶するように心がけている。	昨年12月開所に先立ち、事業所への理解を得る努力を重ねた。開所後も常に挨拶を心がけ、周辺掃除を初めとする地域行事への参加も積極的に行っている。1階に地域交流室を設け、自治会の利用はもちろん、事業所を地域の交流の場として活用する事も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の時に地域の方をお誘いし理解を深めてもらえるよう努めている 近所の方には認知症の方の理解や協力を依頼しつつも気軽に見学して頂けるように対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、実地指導の結果、改善した点を含め報告している。要望や意見は可能な限り運営に反映している。	利用者、家族、地域包括、婦人会、自治会長、民生委員などの参加を得て、2ヶ月に1回開催している。事業所からは日々の活動やヒヤリハット報告を丁寧に行っている。家族代表から、「運営推進会議を行事と合わせてほしい」との希望があり、実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や区の保健福祉部の方とは、密に連絡を取り合っている 市の高齢福祉課には、分からない事があれば問い合わせ、助言を頂いている。	生活保護利用者も半数近くあり、市とは常に連絡を取っている。年2回、市からの訪問もある。窓口担当者の異動もあるが、日頃からの協力、連携関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育に取り入れ研修に参加し、理解を深めサービス担当者会議では、常に身体拘束にならないか話し合っている	身体拘束をしないケアに取り組んでいたが、事業所移転後、2回の離設が発生した。家族と協議の結果、やむを得ない状況として一時的に玄関施錠を行っている。出入口の風鈴や、杖の鈴付けなど、家族からの提案も受けつつ日頃の様子観察を行い、早期に玄関開錠を模索している。	早期に、少しの時間からでも、玄関の開錠を期待します。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、新聞の記事について勉強会をしている 虐待のチェックリストを行い、注意を払ったり、家族様との意見を取り入れている	研修を行うとともに、管理者は3ヶ月に1回の職員との個人面談を行い、ストレス除去に配慮している。特に、スピーチロックは常に意識している。言葉かけを質問形で行うことにより、利用者への対応を工夫している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、資料を回覧したり、月1回訪問して下さる安心サポートセンターの方に尋ねたりしている 高齢や遠方の家族様に対し、成年後見制度について、話し合ったりしている	成年後見制度や日常生活自立支援事業などの利用者はいるが、パンフレットなどの回覧のみで研修は行われていない。管理者は、必要があれば活用に向け支援することはできる。	司法書士や安心サポートセンターなどの協力を得て、ぜひ研修を行ってほしい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の方には、入居前又は当日にしっかり説明し、疑問にはその都度答えている 入院された場合には、再度解約について説明している	見学は随時受け入れている。リーダーと管理者は、入居前、利用者訪問も行っている。急変時などの延命処置などについても、同意書を交わしている。退去条件についての質問も多く受けるが、丁寧に説明し、理解、納得を得ている。移転後の費用変更なども文書を添え行った。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様・家族様にも参加して頂き、意見や要望をお聞きするよう努め、必要に応じお便りに載せている	運営推進会議開催時に、行事を合わせて行うことで、会議への参加を促す提案があった。年2回の遠出外出に、家族も参加したいなどの要望が出て、実施された。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案等は随時聞くようにしている。内容によっては毎月の管理者会議で報告し組織全体で把握するよう努めている	調理専門の職員登用が企画され試みることになった。しかし、調理のみの職員の為、利用者と一緒に調理する事が難しくなり、日々の職員不足を招くと職員の意見もでて見送られた。常に意見が出され、取り上げる体制がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チェックシートやスタッフシートを活用し向上心を持って働ける環境整備と能力や仕事への意欲の評価と処遇への反映に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは全員に知らせ、希望があれば参加出来るように勤務調整を行っている ケアの質について出来ていない、力量不足が見られた場合その都度指導を行い知識、技術を身につけるようにしている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会に参加し、意見交換をしたり、研修で知り合った同業者の施設を見学させてもらったりしている			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人・家族様と面談し、馴染みのある物・好きな物・嫌いな物等、詳しくお聞きし安心出来る環境を整えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で本人・家族様の希望をお聞きし、信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の出来る事・出来ない事をお聞きし、その方に合った支援を見極め対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・できない事を見極め出来る事は進んでして頂き、一緒にする楽しさを知って頂く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、何かあれば連絡を取りご意見をお聞きし、協力をお願いしている 毎月近況報告として、手紙をお送りしている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた事に対し、把握し積極的に支援に努めている	元同僚や、稽古事の弟子が訪ねてくる。古本屋を一緒にしていた友人3～4人の訪問もある。基本は居室で、ゆっくりしてもらいお茶接待なども行う。又、家族の協力で外食や買い物に出掛ける人もあり、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解したうえで、テーブルの座席など考慮している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設に入所されても、家族様と電話や手紙など、その時々に応じて支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや日頃の会話、家族様と暮らしていた時のことなどをもとに、本人のニーズに合った支援をしている	職員が担当制を取っており、入浴介助時や、衣替えなどを利用して、利用者とのコミュニケーションに努めている。家族との連絡や、毎月のお便りなどで信頼関係を築き、本人の思いや意向の把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をお聞きしたりして、生活パターンを把握し、その方らしく生活出来るよう努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・できない事を見極め、お手伝いをして頂くよう努めている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開いたり、家族様や必要な関係者とその都度話し合い、本人にとってより良く反映できるよう介護計画を作成している	入居後は、暫定プランを立て、2週間後に初回の介護計画を作成する。利用者の意向や家族の思いを中心に、毎月のカンファレンスや、医療関係者の意見も入れ、実践に即した計画作成となっている。毎月モニタリングし、3ヶ月ごとに計画の見直しを図っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスで気になることなどを話し合い職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様に合ったサービスに努め、音楽療法やボランティアなど出来る限り本人の思いに添えるような支援に取り組んでいる		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物などの時に、声をかけていただいたり、地域の行事に参加できるよう支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や家族様の協力を得ながら希望の病院を通院したり専門医院への必要に応じての受診など支援している。	ほとんどの利用者が協力医を主治医とし、専門医への受診は初診と緊急の場合、家族の協力を得て行っている。薬の受け取りについても家族の希望により、支援している。訪問看護、往診歯科なども定期的により個々に添った適切な医療を受けられる体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時連絡体制に基づき24時間対応できるようにしている 入居者様に異変があった場合など、すぐに連絡・指示を仰いでいる、必要時は訪問看護との連携もとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提出し病棟NSとSWに依頼し退院までの状況を把握している。受診の際はSWを訪ねコミュニケーションを図っている。	原則、入院時の居室確保は4週間とし、スムーズな退院が行えるよう、医療関係者、家族との情報交換、話し合いを密に行っている。職員間による情報共有についても重視している。管理者が看護師であり、訪問看護師との連携体制についても確保されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りについては、入居時に本人・家族様の意見をお聞きし、入居後も必要に応じて家族様、往診医、看護師、ケアマネなど関係者と何度も話し合いを行っている	協力医との連携を密にし、利用者の状態に応じて家族と何度も話し合い、希望に添った支援を行っている。この2年間で、家族が泊まったの看取りを行った経験がある。職員へのメンタルケアも重視し支援に努めている。夜間の急変時は、管理者が駆けつける体制を取るなど、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会に参加したり、マニュアルを作成し、すぐに対応できるようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間を想定し、年2回の避難訓練を行い地域の方にも参加して頂いている	定期避難訓練は行なわれているが、消防所の立ち合いはまだである。近隣は坂も多く海に近いこともあり、自治会や地域の方との協力体制を強化する必要があると考えている。今後に向け、地域との協力体制を築いて行くことを検討している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあげているように一人一人の自尊心を大切に、個々のプライバシーを保持するよう努めている	日々の業務の中で言葉づかいや、声掛けに注意し、各フロアのユニットリーダーが気づいたことを記録しその都度話し合いをしている。パットなどを見る所に置かない、下着は室内に干すなど心がけている。排泄チェックなどの申し送りはメモで行うなど、配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の心情を理解し共感する事で奥に秘められた思いを引き出しながら自己決定出来るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた声かけや無理な誘いをしないよう努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に合った化粧品や好みの服の購入支援をしたり、2ヶ月に1回の訪問理美容を利用し、好みの髪型出来るよう支援している			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や配膳など共に楽しめるように支援している。	調理の準備や片付け等、出来ることは利用者も一緒に行う。利用者の好みや希望を聞きながら、季節に応じたおやつ作りも一緒に行っている。たこ焼きやクレープ作りが好評である。たくさんのお菓子の中から、好きなものを自分で選んでもらうこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた好みの飲み物を提供している 食事量チェック表・水分量チェック表を作成して把握している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で出来る方は声かけし磨き残しがあれば職員がしている。出来ない方は介助している 週1回訪問歯科医の受診も受けている			

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせたトイレ誘導やリハパンの交換など声掛けている 必要な方は、排泄チェック表などでリズムを読み取るようにしている	排泄チェック表で状況把握を図り、個々に応じた誘導を行っている。布パンツの人もおり、できるだけ現状維持を目指し、継続できるよう職員間でカンファレンスを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分補給など、個々に応じた便秘予防を行っている また便秘の場合は、Drに相談しながら原因や影響を理解し便秘薬を服用している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	リラックスして入浴を楽しんで頂けるよう湯温や量の調節を行っている。またプライバシーも保守しつつ支援している	午後から夕方にかけて、最低でも週に2回の入浴をしている。希望により、決まった日以外の日に入ることもある。好みの入浴剤を入れたり、体調に応じてシャワー浴や清拭、足浴も行っている。ゆっくりのんびり入ってもらうよう、心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った入眠をして頂くように消灯時間は決めていない。状況に応じ日中休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、職員がすぐに確認出来るように個々の介護日誌に閉じている 服薬マニュアルも作成している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合ったお手伝いをして頂いたり、好きなテレビ番組やラジオなどを楽しんだり、買い物に出掛けて好きなおやつなどを選んだりしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物などの希望がある場合は、体調・天候など考慮し行っている	近隣は坂道が多く、車いすの利用者も多い為、日々の散歩は、あまり出来ていない。なるべく外出できるよう介護タクシーを利用し、公園等に行くなど工夫している。家族やボランティアの協力でイチゴ狩りや、温泉へも行った。ベランダに出て、海を見ながら気分転換に外気浴も心がけている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしている事を伝え本人の希望に応じて購入したり、買い物に同行したりして支援している		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人様が家族様に電話出来るよう支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りを一緒に作ったり、行事の写真を貼り居心地のいい雰囲気作りを努めている	移転間もないことから、壁などの飾り物は少なく真新しい感じがする。ベランダから海が見え、日当たりも良く、明るいいリビングである。キッチンからリビング全体が見え、利用者が手伝いをしながら調理をしている。ベランダも広く、これからはプランタンなどで菜園作りをしたいと考えている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓でトラブルのないような席の配置、台所コーナーにも席を設けている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し使い慣れた物を入居時に持って来ていただいて、配置している。自分らしい生活感のある居室にしている。	大きなクローゼットが据え付けであり、片付け易い居室となっている。本の好きな人は、自由に本を選ぶことができ、仏壇、家族の写真を飾るなど、利用者個々に、好みに応じた居心地の良い居室となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札・個別トイレの表示、手すりや椅子の配置を工夫をしている		